

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500098		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホームあゆむ		
所在地	大阪府池田市室町7-7		
自己評価作成日	平成24年3月28日	評価結果市町村受理日	平成24年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2792500098&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2792500098&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年5月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあゆむでは利用者様のレベルが高く外出、食事作り、散歩、買い物何でもしていただいております。季節の行事も大切にしています。年に1度の温泉旅行、利用者様、家族様職員で温泉に入りそのあとの宴会もすごく楽しみにされています。『今したいこと、出来ること、やれること』を考え、スタッフが気づき利用者様の気持ちを引き出そうとしています。人と人のふれあい、心と心のふれあいを大切にして行くよう心掛けております。1階に保育園ができたのもあり保育園のイベントの参加、交流も積極的に行っている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、以前幼稚園であった建物を改修し1階に保育園が併設した2階に位置し、階下から子ども達の声が聞こえ、一緒に散歩に行ったり行事を行うなど交流の機会が多くあります。利用者や家族、地域、併設する保育所等の皆が一つの輪になるような支援を目指し、家庭的で住み慣れた環境の暮らし続けられるよう、職員同士がチームワーク良く支援し、利用者は笑顔で過ごされています。利用者に寄り添う中で、今できる事を大切に、絵を描く等の趣味や食事作り、日課にしていること等が行えるよう支援することで、個々のやり甲斐に繋がっています。また、地域住人で作られている室町会や、呉服神社から誘いを受け、地域のイベントやえべっさん等に出かける事から地域との交流が少しずつ広がり始め、地域の一員になれるよう前向きに取り組んでいるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間のミーティングにより一人一人が笑顔でみんなが一つの輪になるようにというホーム独自の理念を作りスタッフ間で共有している	ホーム独自の理念の基、利用者や家族、地域、併設する保育所等の皆が一つの輪になるような支援を目指し、一人ひとりが笑顔になれるよう取り組んでいます。管理者は研修や個々に話をする機会に理念について伝え、原点に戻り共有するように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	室町会、民生委員、呉服神社の神主様より地域のイベントに声をかけていただいたり参加したりしている(運営推進会議をいかにしている)	地域住人で作られている室町会や、呉服神社から誘いを受け、地域のイベントやえっぺさん等に出かけています。利用者が順番に買物に行ったり散歩の際に、地域の人と挨拶を交わすようにし、日々の交流に努めています。併設する保育園児との交流も日常的にあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ介護での悩み、介護方法などのわからないことなど相談会を開催、随時相談受付、見学にいつでも来ていただけるようにしているため来られた際には相談に乗り力になっていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度行い意見交換をしたり、イベントの声掛け、助言をいただき地域との関わりを大事に考えてくださっている	運営推進委員会は、呉服神社神主や室町町理事、池田市職員、民生委員、家族代表等の参加の下、2ヶ月に1回開催されます。運営状況や行事の報告を行い、玄関の施錠等についての意見をもらっています。自治会への入会や地域交流についても、議題に挙げ話し合いを重ねています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談、アドバイスをいただいたり質の向上に取り組んでいる	市の担当者には運営推進委員会に出席してもらい、意見交換をしています。役所からは研修会の案内等のファックスを貰ったり、諸手続きに直接出向いた時や電話でわからない事を教えてもらう等、密な関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階入り口の鍵に関しては他施設で外に行かれたのもありご家族の希望もあり危険防止のために施錠している。玄関の施錠に関しては、地域の方との約束もありシャッターと玄関の鍵は日中は解錠、夜間帯は施錠している	外部研修と内部研修で、虐待や身体拘束をしないケアについての勉強をし、職員に周知しています。ベットの4点柵が拘束である事等、具体的な事例を通してわかりやすく伝えていきます。家族の希望や地域の方々との約束で施錠していますが、外へ行きたい様子があれば、一緒に外に行き拘束感のないよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外、社内研修を行い虐待について個人が意識し虐待防止に努めている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加、ミーティング、社内研修なども行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1時間から1時間30分とて頂き契約を行っている、項目ごとに時間を設け不明な点の説明、質問の時間を作っている。納得できるまで説明している。それでも不明な点がある場合には資料を添えて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様と積極的にコミュニケーションをとるようにしている、家族様来所時には声をかけさせていただき意見、質問、利用者様の現状を話さしていただく。2階入り口に意見箱を設置し発言しにくい方にも対応している。派遣相談員の訪問も月に1度あり活かすようにしている	面会時や、病院受診の時に声をかけて来てもらったり、手紙等で意見を聞かせてもらっています。殆どが感謝の言葉であるため、今後意見や要望を聞かせてもらえるようアンケート等も行っていきたいと考えています。意見箱も設置しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中に時間を設け職員1人1人に少しずつ時間をとり話を聞く。そこからでた意見や提案をミーティングで取り入れ業務に反映するようにしている	職員ミーティングは1ヶ月に1回行い意見を出し合っています。管理者は3~4ヶ月に1回は職員との個別面談を行い、意見を言いやすいように配慮しています。職員からの意見から、働きやすい職場環境作りや利用者の楽しみごとの為の行事や外出について等の意見が出され、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける環境なるようにスタッフ同士が刺激しあい、やりがいや、充実した毎日が送れるような環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修に参加、社員中心で研修に参加しミーティングや社内研修で活かしたりその都度気づき、感じたことを職員に伝え職員のレベルアップにつなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2~3ヶ月に1回池田市のグループホームの管理者、計画作成担当者、リーダーが集まる機会があり、意見交換、勉強会、悩み、困難事例などの検討会などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを密にとるようにし、傾聴の姿勢をとり、じっくり時間をかけ寄り添い本人が安心できるように信頼関係を気付けるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来所時に家族様の要望などに耳を傾け、少しでも安心できるような形を持って行けるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が必要か？大事か？スタッフ、家族、本人も入り話し合う機会(担当者会議)を作っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活の延長で1つの家族としてお互いが支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフも家族様と同じように本人を支えていく関係を築きながら、本人と家族様の絆を大切に、家族様にも病院受診など協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物へ行った時、外出時、そして訪問があったり馴染みのある場所へ行ったり出来る限り関係が途切れないよう支援している	個々の馴染みの場所を知り、以前に行っていたスーパーに歩いて買物に行ったり、猪名川の河川敷や、商店街を散歩しています。家族の協力を得て、法事や墓参りに行く方もいます。また行きつけの美容院に行けるように支援し、馴染みの人や場との関係が続けられる様努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で洗濯物を置んだり、洗い物をしたり、談話したりお互いが支えあい生活している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在退所された方はいないが退所された場合はご家族様と連絡をとったり、ご本人様と仲が良かった利用者様と会える機会を作ったり関係を続けられるような体制を考えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの聞き取り、利用者様がおっしゃられた言葉、表情など気づきを大切に日頃関わっている職員が情報として出し合っている	入居時に本人や家族と面談し、生活歴や習慣を聞き、どのような暮らしがしたいのか、思いを把握に繋げています。表現ができず思いの把握が困難な利用者には、表情や行動から汲み取り、職員間でカンファレンスで検討し思いを共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の来所時、入居前、入居後など出来る限り情報収集を行いスタッフ間で共有できる形をとっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフがアセスメント、カンファレンスし現状の把握に努めている。1人1人のペースに合わせて生活して頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、スタッフ間では担当者会議の実施、友人など共話し合いの機会をもち、会議では必要に応じて医師や看護師の意見を反映したり、モニタリングを行っています	利用者の意向の基、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い計画に沿った介護が出来ているかを確認し、3ヶ月毎に再アセスメントを行い、見直しに繋がっています。計画には、医師や看護師の診療情報提供書等の内容も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りのノートを作成し情報を共有、工夫し実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全安心に外出できるように支援している。系列の介護タクシーに依頼することもできる。事業所が送迎に関わらず家族様に依頼するなどかかわりを持っていただくよう支援している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りにある地域資源を活用し且つ駅が近い等豊かな暮らしを楽しむ事ができる環境であるため、支えている地域資源を把握し支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合受診が必要か主治医の先生に相談、家族様にも連絡している。入居前からかかりつけ医がおられる場合の対応も出来るように支援している	契約時に、かかりつけ医を継続出来る事を伝えていきます。継続されている利用者もおり、受診には家族と職員が付き添っています。協力医とは24時間電話で相談でき、緊急時や必要時には訪問看護師と連携もとれ協力体制が整えられています。歯科等の受診が必要なおきには、電車での通院支援もしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の在宅医療の医師や看護師と連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ訪問し医師や看護師、ご家族様とカンファレンスの場を持っていただき情報交換を行うよう努力している。又電話などでも連絡し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いの場を持っている。状態の変化する中では協力医療機関から医療情報提供表を1ヶ月に1度家族様、事業所にいただいている。緊急時の対応も説明しており必要時家族様、医師、管理者、ケアマネージャーで話し合いの場をもうけている	入居時に重度化した場合のホームで対応できる事やできない事等について、話をしています。ホームで出来るだけ支援できるよう、訪問看護師の訪問を受けたり、家族や医師、職員が繰り返し話し合いを持ち方針を共有し、個々の利用者にとって最善の暮らしや治療の場を考え支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で緊急時の手順や事故発生時対応について周知徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制については地域の代表の方から地域の方に話をしている、避難場所なども事前に聞いている。災害に備え訓練を保育所と共同で行ったり、実際に消防署の方に来ていただき訓練をしている	年1回は消防署立会いのもと、年2回は独自で保育園と一緒に避難訓練を実施しています。避難経路の確保や消火器の使い方、日中を想定して誘導の訓練も行っています。室町会の方と共に、地域との協力関係を築けるよう話を進めています。	職員の多く居る日中だけではなく、夜間を想定した訓練も行い、職員や地域、消防署との連携体制が築かれることを期待します。

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを基本としている。不適切な言葉が出た時は職員同士注意しあっている。時間にとられず利用者様の意向を大切に考え支援している	入職時に、利用者は人生の先輩であり尊厳を持って接する事を職員に教育しています。柔らかな言葉遣いを心がけ、トイレの誘導は近くに行って小声で対応するなどの配慮をしています。職員同士の意識も高く、互いに注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望、選択、自己決定出来るように声掛けに工夫し、表情などに気づきがあったスタッフは声掛けし積極的に対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの人数、時間などで希望に沿った支援が出来ていない事もあるが1人1人のペースを大切に考え出来る限り希望に沿った支援が出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と毛染め、カットへ行ったりされている方、マニキュア、化粧などはご自分でできる方はして頂いたりできない方は介助もスタッフの介助にて行っている。服は家族様に持って来ていただいたり、スタッフと買い物時に購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・食事作り・片づけなどその人1人1人の能力に合わせ一緒にしていただいている 週一回利用者様のメニューを決めて頂いている イベントを一緒に考えて頂いたりお弁当を持って行ったり、うどん打ちなどもしている	食事は、利用者の希望も取り入れながらメニューを決め、一緒に買い物に行っています。野菜切りや味付け、片付け、食器洗い等、利用者にも出来る事に携わってもらっています。職員と一緒に音楽を聴きながら、楽しい食事時間となるよう支援しています。気候の良い時は弁当を持って出かけたり、外食に行くこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量は分かるように毎食・毎時間記録している。摂取困難な場合は必要に応じ担当医師に指示を仰ぐこともある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている しっかり磨けない方もいらっしゃる為仕上げ磨きを必要な方もいる 必要時訪問歯科などでも対応している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表をつけトイレ誘導などの時間を工夫し排泄パターンがわかるようにしている 利用者様にあわし強制的にいてもらうわけではなく状況を把握し、さりげなく声掛けをするなど対応している	排泄チェック表のデータを分析しその人に合ったタイミングに合わせたり、また仕草や歩き方等の様子から察知した時には、トイレへ誘導しています。紙パンツから、パットの使い方等を工夫して布パンツに変更したり、トイレで排泄出来るようになった人もあり、排泄の自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・適度の運動を心掛け工夫して提供している 便の薬も理解し薬剤師、医者にご相談するなど2週間おきに報告をし対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めているがその時の利用者様の状態、時間、気分なども配慮し声掛けを行い、利用者様を優先して決定している 拒否が見られるとき、入浴日以外に希望された場合は個別で対応している	週3回を目処に、朝から夕方まで入浴出来るように準備し、希望を聞きながら週に3回は入れるように支援しています。また希望があれば毎日でも対応しています。入浴拒否傾向の人には、無理に入ってもらわず、家族の協力を得たり、往診日に協力医から勧めてもらうなど、工夫して入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないようにすることを前提に体調や気分に合わせてお昼寝をしていただいたり、ベッドで臥床し足を延ばして頂いたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて確認できるような形をとっている 薬のケースを用意し、日付、名前、食前なのか食後なのかを服用時に読み上げ服用して頂いている 薬に変更があった場合は記録、申し送りを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味、生活歴そしてあゆむに来てから発見したこと含め気づき、理解しその方の方に合った楽しみを見つけ過ぎて頂くように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、喫茶店、買い物、家でされていた事や今したい事、やりたいこと、利用者様の訴えを出来る限りその場その日に対応できるような形をとっている 家族様と外食、外出、美容院へ出掛けたりと外出の支援の支援をしている	日々の散歩や喫茶店など利用者から希望が聞かれ出かけたり、フラワーパークに行くこともあります。家族を誘っての年1回の温泉旅行や、車で弁当を持って外出するなど、利用者楽しんでもらっています。今後は電車を使って行く事も検討しています。	

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からお金を預かりスタッフが金庫に管理している 買い物時にお金を持っていただき支払われる方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に負担がかからないようにし、希望があった場合は電話をしたり、電話があった場合本人に代わり電話で話をしたりする 買い物時に手紙やはがきを購入し、書かれる方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しないように大きく場所移動は避け、整理整頓をし過ごしやすい環境を整えている 温度、湿度管理を行い日中スタッフ、夜間スタッフで連携を取りその日その日に応じて調節し対応している	庭にあるプランターに季節の野菜や花が植えられ、季節を感じる場となったり、保育園の子ども達との交流の場にもなっています。廊下等にも椅子を置き、その時の気分で過ごせる様に工夫されています。キッチンと食卓が近く、調理の様子が見え食事の匂いを感じ、家庭的な雰囲気のある共有空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で気の合った利用者様と一緒に過ごしたり、コーナーに椅子を設置し、ゆったりできる空間をつくっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様、本人と相談をし好みの物を置いたり、本人が使いやすい位置に置いたりし、居心地良く過ごして頂くようにしている	好みの暖簾をかけて自分の部屋が分かるようにしています。自宅で使っていたタンスや冷蔵庫、化粧品を置き、家族の写真や等を飾りその人らしい居室作りに配慮しています。仏壇も持ち込まれている方がいたり、居室で音楽を聞いたり、本を読む等、趣味を楽しむことができ、居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様1人1人のADLを把握し、力を引き出し利用者様が主でしていただく様に支援スタッフは出来ないこと、自立、見守り、一部介助、全介助をきっちりと判断し、対応している		